

# 河川改修事業をきっかけとしたまちづくり活動におけるコーディネーターに関する研究\*

～石川県七尾市御祓川整備事業を事例として～

Study on the Coordinator of Machizukuri with Riverfront Redevelopment\*

～Case Study on Misogiri river in Nanao City～

高尾忠志\*\*・樋口明彦\*\*\*

By Tadashi TAKAO\*\*・Akihiko HIGUCHI\*\*\*

## 1. 研究の背景と目的

平成9(1997)年の河川法の改正により、河川事業における住民参加が法的に位置づけられ、わが国の河川整備において、住民参加は当然のものとなった。翌年の平成10(1998)年から始まった「全国「川の日」ワークショップ」において、多くの川づくりの事例が報告されている<sup>1)</sup>ように、河川整備における住民参加は、計画・設計・施工と言った整備事業のみへの参加にとどまらず、事業後に河川を守り育てる利用・活用段階まで広がりを持ちつつある。

しかし、それらの事例では、「川づくり」という言葉が示すように、住民参加の範囲が河川区域内にとどまっているものが多い。河川は、都市においてはその骨格を形づくり、また地域住民の住環境においても中心的な役割を果たすこと期待されている。今後、特に都市域での河川整備においては、河川整備事業における住民参加が、単に河川区域にとどまらず、地域全体のまちづくり活動のきっかけとなることが期待される。

河川整備をきっかけとしたまちづくりの方法論については、樋口等の研究<sup>2)</sup>、(財)リバーフロント整備センターによる調査<sup>3)</sup>、樋口等による調査<sup>4)</sup>、篠原等による報告<sup>5)</sup>等が行われている。その中では共通して、河川管理者である国・県とまちづくりの主体である市町村、地域住民、NPO法人等の関係主体が連携し、一体的なまちづくりを行うためのコーディネーターの必要性が指摘されている。

本研究は、石川県七尾市を流れる御祓川のふるさとの川整備事業を対象として、事業実施期間中に行われたコーディネートの主体、目的、行為、時期等を整理し、住民参加がまちづくりのきっかけとなるためのコーディネーターの方法について考察することを目的とする。

\*キーワード: 住民参加、景観まちづくり

\*\*正員、工修、九州大学大学院工学研究院

(福岡市東区箱崎6-10-1工学部本館237号室、TEL092-641-3131ext.8677、FAX092-642-3309)

\*\*\*正員、Doctor of Design、九州大学大学院工学研究院

(福岡市東区箱崎6-10-1工学部本館236号室、TEL092-642-3625、FAX092-642-3309)

## 2. 調査対象と調査方法

### (1) 調査対象

本研究で対象とする御祓川ふるさとの川整備事業は、石川県七尾市の中心市街地を流れる区間において平成9(1997)年より計画策定が行われている(図-1)。平成6(1994)年より、隣接して県道府中七尾駅線シンボルロード整備事業が行われており、JR七尾駅と港を結ぶ七尾市の都市軸を形成するまちづくりが行われている。



図-1 整備完了区間の御祓川の様子

### (2) 調査方法

本研究では、ふるさとの川整備事業の事業プロセスについて、関係機関が発行したパンフレットやまちづくりに関する専門誌等の文献調査<sup>6)-12)</sup>、表-1に示す関係者へのヒアリング調査を実施した。

表-1 ヒアリング対象者

名前	所属
谷 雅人氏	石川県中能登土木総合事務所
三野助樹氏	七尾市建設部都市整備課
森山奈美氏	株式会社御祓川/NPO法人川への祈り

## 3. 御祓川ふるさと川整備事業におけるコーディネート

ここでは、御祓川ふるさとの川整備事業が行われるまでのまちづくりの経緯、事業のプロセス、事業後の展開について整理する。まちづくりの年表を表-2に示す。

### (1) 七尾市のまちづくりの経緯

石川県七尾市は、古くは万葉の時代から港町として栄え能登の中核都市であるが、昭和50年頃には主要産業である港湾産業は振るわず中心市街地は衰退していた。昭

和60（1985）年、このような状況を打破するために、（社）七尾青年会議所が中心となって「七尾マリンシティ構想」を策定し、その推進母体として七尾マリンシティ協議会が設立された。同構想は港からの中心市街地の再生をねらい、その中で位置づけられたフィッシャーマンズワーフが、平成3（1991）年「能登食祭市場」として建設された。この市場は現在年間90万人が訪れる七尾観光の拠点となっている。

続いて、平成7（1995）年には、停滞していた駅前再開発が進み、日用品等の店舗群が入る大型商業施設「パトリア」がオープンした。これにより七尾市の中心市街地は、二つの集客核を持つことになった。

さらに、平成6（1994）年からJR七尾駅と七尾港を結ぶ県道府中七尾駅線シンボルロード整備事業（延長690m）が開始される。石川県は、中心市街地活性化に関する施策を重点的に行う地区として、県内に8カ所を選定しまち中の道路整備を行っており、その対象地として選ばれたことにより事業が行われた。事業実施にあたって石川県都市計画課は、道路の整備デザインをワークショップ形式の住民参加によって行うこととした。また、拡幅により建て替わる沿道の建築物については、七尾市が景観形成委員会を組織、沿道住民とともに地区計画を策定し、平成10（1998）年12月に都市計画決定した。

#### （2）ふるさとの川整備事業におけるコーディネート

このような状況の中で、平成9（1997）年7月に御祓川がふるさとの川整備河川に指定され（延長1,230m）、石川県河川課および七尾市は御祓川整備計画の策定を開始する。整備計画の策定にあたって石川県河川課および七尾市は、ワークショップ形式による住民参加を行うこととした。

平成7（1995）年よりシンボルロード整備事業のワークショップの担当をしていた（株）計画情報コンサルタント（当時）の森山氏は、「住民にとっては道路も川もそこに架かる橋も、連続する空間にある“生活の場”であり、住民参加の場を一緒にするよう県に働きかけた」と語っている。

平成10（1998）年、石川県都市計画課長に国土交通省からの出向した笠原氏が着任した。笠原氏は、森山氏と協議し、七尾市中心市街地の都市軸を一体的に形成することが望ましいにもかかわらず、個別に実施されているふるさとの川整備事業とシンボルロード整備事業等の事業について、それらをまちづくり全体の中で明確に位置づけることを目的として、関係機関に呼びかけて検討体制づくりを行い、「七尾都市ルネッサンス・都心軸整備協議会」を設立し、「都心軸整備計画」を策定した。検討体制は図-2のようになっており、ワーキングや委員会において各事業の詳細な検討を行い、必要な行政間調整を行う「行政ワーキング会議」を経て、市長も委員と

して参加する都心軸整備協議会において決定される3層構造となっている。

表-2 七尾市中心市街地におけるまちづくりの経緯

年	出来事
S50頃	中心市街地の衰退
S60	（社）七尾青年会議所が中心となり、七尾マリンシティ構想を策定
H3	能登食祭市場オープン
H6	県道府中七尾駅線シンボルロード整備事業開始
H7	駅前再開発パトリア開店
H9	シンボルロード整備に関する住民ワークショップ開始
H9	7月 御祓川ふるさとの川整備河川指定
H10	御祓川整備計画策定
H10	4月 笠原氏石川県都市計画課長着任
H10	8月 TMO七尾街づくりセンター株式会社設立
H10	12月 府中七尾駅沿道地区地区計画都市計画決定
H10	笠原氏の呼びかけにより「七尾市ルネッサンス・都心軸整備協議会」設立、「都心軸整備計画」立案
H11	「都心軸まちづくりワーキング」にて検討開始
H11	6月 株式会社御祓川設立
H11	11月 御祓川ふるさとの川整備計画認定
H12	9月 全国ドブ川市民サミット開催
H12	4月 まちづくり総合支援事業開始
H12	4月 インキュベーター施設 寄合処御祓館オープン
H12	8月 NPO川への折り実行委員会設立
H13	1月 情報処しるべ蔵オープン
H14	7月 全国「川の日」ワークショップ準グランプリ受賞
H14	8月 御祓川浄化研究会発足
H15	6月 元気なお仕事塾発足
H15	日本水大賞 国土交通省大臣賞受賞
H16	7月 全国「川の日」ワークショップグランプリ受賞

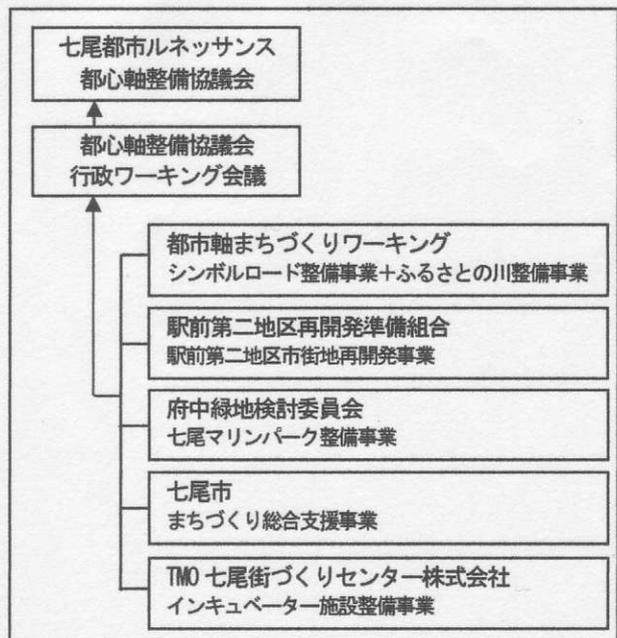


図-2 検討体制図 (平成13年6月現在)

さらに森山氏は、担当コンサルタントとなっている都市軸まちづくりワーキングについて、沿道住民だけでなく、事業に興味を持つ人が誰でも自由に参加できる方式にし、毎回の会議結果をニュースとして現場に設けた掲示板で広報し、さらにコミュニティFMを利用して次の

会議予定を広報するよう県に提案し、実行している。

このようにして、平成11年10月までの1年半で合計22回の住民ワークショップを行い、詳細のデザインまで含めた河川と道路整備計画の検討を行っている。「途中からコミュニティFMの広報によって市内の視覚障害者が検討に参加し、バリアフリーへの検討も深まった」と森山氏は語っている。

### (3) まちづくりへの展開

#### ①株式会社御祓川による展開

平成11(1999)年6月、森山氏が中心となって株式会社御祓川を設立する。河川を中心としたまちづくりを行うことを目的としており、①御祓川の浄化、②界隈の賑わいの創出、③コミュニティ再生を活動の柱としている。

御祓川浄化に向けては、平成12(2000)年2月に「御祓川浄化方策技術ワークショップ」を開催、同年8月にはNPO組織「川への祈り実行委員会」を設立、さらに平成14(2002)年には行政や大学、高校、地元企業を巻き込んで「御祓川浄化研究会」を設立し、浄化技術の課いっつを行っている。

界隈の賑わい創出に向けては、川沿いに魅力的な店舗を立地するために、地元商業者を対象としたマーケティング塾を開催した。平成12(2000)4月TMO七尾街づくりセンター株式会社が購入していた旧十八銀行の建物をリニューアルし、「寄合処御祓館」がオープンし、塾生から工芸品店、美容院、飲食店等の出店者が出ている。

コミュニティ再生に向けては、川と地域住民との関係を取り戻すために、平成12(2000)9月の全国ドブ川サミット等多くのイベントやシンポジウムを開催している。

#### ②七尾市による展開

七尾市は、ふるさとの川整備事業とシンボルロード整備事業による都市軸の形成に肉付けするかたちで、平成12(2000)年にまちづくり総合支援事業を開始している。御祓川と県道から東西に延びる6本の街路を周辺の町並みに合わせた舗装にする整備、シンボルロードと御祓川の間にできた残地のポケットパークとしての整備、シンボルロードの拡幅整備により立替を余儀なくされた大正時代の土蔵の「情報処しるべ蔵」としての整備、等を事業メニューとして平成16(2004)年まで事業を実施している。

#### ③一本杉通りにおける展開

七尾市によるまちづくり総合支援事業によって整備される、御祓川と県道から東西に延びる6本の街路のうちの1本は、延長450mの商店街に登録文化財の家が4軒も立地し、「一本杉通り」と呼ばれる。ここでは市によるまちづくり総合支援事業によって町並みに合った舗装改修が行われた後、地域住民によって歴史的な街並みに合わせた歩行者用照明デザインを検討し上で設置した。ま

た、平成16(2004)年から明治初期に能登の風習であった花嫁のれんを題材にした「花嫁のれん展」を開催し、多くの来訪者を集めている。

### 4. おわりに

七尾市御祓川におけるふるさとの川整備事業においては、笠原氏と森山氏という二人のコーディネーターが存在した。笠原氏は意志決定のシステム、検討項目の整理、住民参加による詳細検討の場について、関係行政機関を相手にコーディネートを行った。その結果、「都市軸整備計画」という統一した将来構想を明確化することに成功している。一方、森山氏は、株式会社御祓川という住民組織において、川づくりを沿川のまちづくりに展開していくコーディネートを行っている。このような行政側と住民側の双方にコーディネーターが存在し、明確な意志決定システムと活動主体によって事業が推進された結果、まちづくりへの展開が生まれたと考えられる。

#### 参考文献

- 1) 「いり川・いり川づくり」研究会編著：私たちの「いり川・いり川づくり」最前線，学芸出版社，2004.
- 2) 樋口明彦，佐藤直之，高尾忠志：まちの活性化を促す都市河川整備のあり方に関する研究，土木計画学研究・論文集 Vol. 22，pp. 387-396，2005.
- 3) (財)リバーフロント整備センター編集：ふるさとの川をつくり育てる—ふるさとの川整備事業事例集—，大成出版社，2000.
- 4) 樋口明彦他：川づくりをまちづくりに，学芸出版社，2003.
- 5) 篠原修他：都市の水辺をデザインする グランドスケープデザイン群団奮闘記，彰国社，2005.
- 6) 株式会社御祓川：御祓川をめぐるマチ・ミセ・ヒト 民間まちづくり会社とNPOによる御祓川再生事業，株式会社御祓川，2005.
- 7) 石川県・七尾市：七尾都市ルネッサンス都市軸整備計画パンフレット，石川県・七尾市，2001.
- 8) 石川県・七尾市：御祓川ふるさとの川整備事業パンフレット，石川県・七尾市，2002.
- 9) 国土交通省北陸地方整備局監修：ほっとほくりく 2005年6月号，(社)北陸建設弘済会，pp. 13-16，2005.
- 10) リバーフロント整備センター編：川・人・街 川を活かしたまちづくり，山海堂，pp. 246-249，2001.
- 11) 森山奈美：御祓川がつなぐマチ・ミセ・ヒト，季刊まちづくり 6号，(有)クッド研究所・(株)学芸出版社編集，pp. 64-71，2005.
- 12) 八甫谷邦明：タウンマネジメントの可能性を探る，造景 No. 30，建築思潮研究所編集，pp. 60-77，2000.